

5. 学校評価

(4) 2021 学校評価書

山形調理師専門学校

■自己評価の基準 A:おおむね達成できた B:少し達成された C:あまり達成されず D:達成には程遠い					■学校関係者評価の評価基準 A:おおむね評価できる B:少し評価できる C:あまり評価できない D:まったく評価できない	
番号	評価項目	今年度の成果と課題	自己評価	次年度への改善点	学校関係者評価	学校関係者の意見・要望
1	カリキュラム改善	授業計画書(シラバス)作成も3年目となり、体裁を統一して作成した。授業・実習の所定時間数確保のため、レクレーション的要素の大きい「ボーリング大会・球技大会」を取り止め、コロナ感染拡大時に備えた。	A	テーブルマナー(食事会を通した学習＝年間3回、実施2年目)の会場を、和・洋・中のバランスが取れた選定を維持する必要がある。	A	コロナ感染拡大対策としてカリキュラムに反映して改善に取り組んだ内容について評価できる。クラスメイトとキャンパスライフを楽しめる時間割も一つ位あったら良かったのでは、と思う。
2	シラバス活用	実習準備の一部を、2-2(調理高度技術科2年)学生が当番制で行うことで、より高い意識で実習に臨めた。当番の遅刻など、倫理意識にまだまだ問題を抱えながらも、規範教育向上にも繋がった。	A	2-1(調理高度技術科1年)にも拡大できるか、当番制のあり方も含めて検討して、3月までには新年度の方針を決定していきたい。	A	学習の流れを理解して、円滑に進めていく事ができた。学生それぞれが高い意識を持って実習に臨んだことは評価できる。
3	学習支援	きめ細かい指導を行っているが、一部ながらも出席時数不足並びに成績不振の学生が後を断たない。時数不足の学生は、7月・12月さらには2月にも補充指導を行い、卒業・進級に向けて手立てを施す。	B	学習する力が不足している学生も少なくない。個別の指導の在り方など、教授方法を皆(常勤・非常勤)で共有できる場などを検討したい。	AB	全ての学生に対して、親身になって相談・指導してもらっている。時数不足の学生に対して、補充指導を行っている事は、とても評価できる。将来技術を持って社会に貢献できるよう指導育成をお願いしたい。
4	規範教育	全職員が、同じ指導(化粧・ピアス等の指導において)を、足並みを揃えて行った結果、大きな改善に繋がった。30人を超える調理高度技術科が2クラスになるので、低きに流れないよう根気強い指導を行っていく必要がある。	B	15分以上の遅刻を「欠席」として扱ってきた。その一方で、何の断りもなく入室している現状を鑑み、職員室で押印した「遅刻届」を提出してから、教室に入る方式を導入する。	AB	「遅刻届」については、どの高校でもやっていることなので、学生は違和感なく受け入れると考える。次年度の改善点にぜひ導入してほしい。
5	就職指導	常勤・非常勤講師問わず共有すべき進路希望に若干の漏れがあった。求人はほぼ昨年並みで、コロナ前には戻っていない。専門職に就きたい学生への手立てが遅れたのは、情報共有の漏れがあったことは否定できない。	B	学生の希望と内定状況をどのように共有するかを検討する。	B	学生の希望が固まらないと進路決定につながらない事から、特に調理師科については、早い段階での意思決定につながる指導が必要。
7	作品コンクール	JA全農山形の協賛(食材提供 庄内豚ぶーみん・りんごフジ)を得て実施した。審査員のJA職員・保護者からはとても美味しいとの言葉を頂戴すると共に、審査結果を点数で表したことにより、透明性のある審査を実施することができた。	A	非常勤講師からは、適切な量に対する言及があった。4人分を作成するコンクールであるが、味と見た目を大切にすることはもとより「食べられる量」についても、考慮させたい。	A	日頃学んだことを発揮し、先輩や学校内外の関係者から評価・指導していただく場を設けていることは評価できる。SDGsの観点からも、ただ美味しければよいということではなく、食べ残しのない調理も重要です。
10	学校パンフレット	6月にHPと共に刷新した。800部作成したが、12月までの半年で不足が生じている。県外からの資料請求と入学に結び付く県内高校3年生を仕分けした場合で、どのような状況になるのか次年度の調査を待つことにする。	A	高校2年生で届いた資料と3年生で請求した資料が異なるように、マイナーチェンジする予定。	A	HPとともにパンフレットは学校の「顔」です。調理に関心を持つ生徒は一定数いるので、その生徒たちが入学したいと思うパンフレットに。そして、授業料など経費については、できるだけ分かり易いつくり期待します。
11	高校訪問	進路指導室への訪問を取り止め、依頼のあった高校・会場での学校説明だけを行った。入学者数に大きな変化がなかったことから、必ずしも高校訪問が学生確保に繋がらないのではないか、もう一年様子を見ることにする。	B	山形市報にも、オープンキャンパスの案内を掲載した。タウン誌も含めて、有効な広報のあり方をさらに検討を重ねる。	B	高校生に直接働きかける手法(SNSなど)の導入が必要。若い人が山調で楽しく学びたいと思えるようなHPの作成に期待したい。
12	学生サポーター	2名から4名へと増員した学生サポーターは、オープンキャンパス参加者に好評価を得ている。「学校の様子を語らせる」など、さらに前面に出していけるように指導を工夫したい。	A	事前指導を行い、案内と学校紹介を手分けする。実技の援助は、これまで通りに4人で向かわせるが、担当と動線を明確にする。	A	オープンキャンパスの参加者にとり、年齢が近く先輩になるだろう現役学生のサポートは効果大な存在だと評価できる。学生を人選(学生の交替制など)しながら、ぜひ続けていただきたい。
13	ブログ	「山調BLOG」のほぼ毎日更新したことが、閲覧数増加に繋がったと考えている。いかにマンネリにならないように工夫するか、日々悩ましい。保護者へは、授業参観に替わり、YouTubeで限定閲覧できるよう努めた。	A	材料探しが、大きな課題。	A	授業内容はもとより四季折々の近隣の話題等を写真・コメント入りで丁寧に作られており楽しいブログになっている。レシピとか調理方法とかのアップも検討いただきたい。